

ペット関連の支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

毎年9月20日から26日までの一週間は、動物への理解と関心を深める「動物愛護週間」です。そこで今回は、ペット関連の支出について家計調査の結果からみてみましょう。

ペット関連の支出は増加傾向

二人以上の世帯の1世帯当たり年間支出金額について、平成7年から21年までの推移をみると増加傾向にあり、15年間で約1.7倍に増加しています。このうち、ペット関連支出全体に占めるペットフードの割合は約4割、動物病院代は約3割で推移しています（図1）。

二人以上の世帯では50～59歳の世帯で最も多い

次に、二人以上の世帯の1世帯当たり年間支出金額及び消費支出に占める割合を、世帯主の年齢階級別にみてみましょう。

支出金額は世帯主が50～59歳の世帯で28,951円と最も多く、次いで40～49歳の世帯、60～69歳の世帯などとなっており、30歳未満の世帯で最も少なく、6,095円となっています。

消費支出に占める割合も同様の傾向を示しており、中高年の世帯で高くなっています（図2）。

単身世帯では女性が男性の4倍以上

最後に、単身世帯の1世帯当たり年間支出金額を男女別にみると、女性（平均12,508円）は男性（平均2,983円）の4倍以上となっています。

さらに、年齢階級別にみると、女性の35～59歳の世帯で20,752円と最も多くなっています（図3）。

ペット関連の支出とは、「ペットフード」、「動物病院代」及び「他の愛がん動物・同用品」の合計です。なお、平成16年以前の「動物病院代」は「他の愛がん動物・同用品」に含まれます。

図1 ペット関連の年間支出の推移(二人以上の世帯)

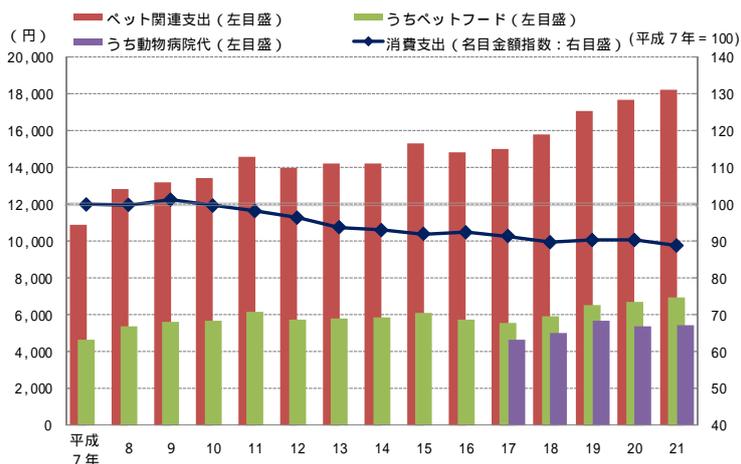


図2 年齢階級別ペット関連の年間支出 (平成21年 二人以上の世帯)

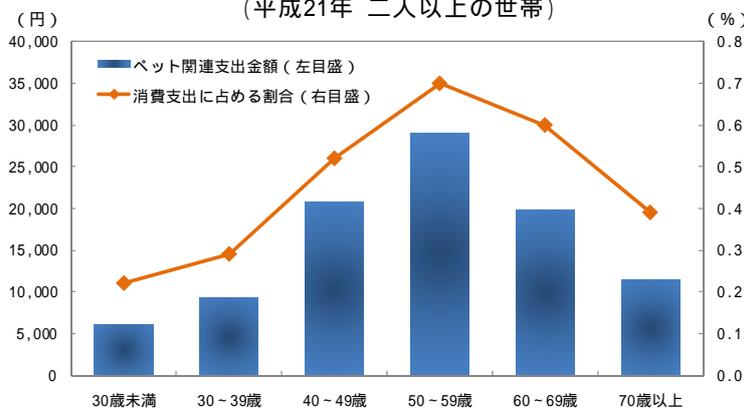


図3 男女・年齢階級別ペット関連の年間支出 (平成21年 単身世帯)

